

キャンプを取り入れた新入生宿泊研修が女子高校生の学級風土に及ぼす影響 ～達成感の共有に着目して～

前川 茜 (生涯スポーツコース 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード: 青年期女子, キャンプ, 達成感の共有

1. 序論

今日, 青年期女子における決まったグループでしか行動できない, 他のグループ成員を寄せつけないといった「グループ化」の問題が起きている。これは, 学級運営への影響といった点からも指摘されている。女子のグループ化の問題は, 高校生の充実した学級作りへの弊害だと考える。筆者は, キャンプは女子のグループ化の問題に対処し, 良い学級を作るきっかけになると考えた。そこで本研究では, キャンプを取り入れた新入生宿泊研修が女子高校生の学級風土に及ぼす影響を明らかにし, 特に, 達成感の共有との関連について着目することを目的とする。

2. 研究方法

【対象者】2012年4月19日～21日にO女子高等学校スポーツコース宿泊研修に参加した36名を実験群とした。また, 比較群としてキャンプではない宿泊研修を行った他コースより1クラスずつ(幼児教育コース34名, キャリア進学コース39名, 美術・イラスト・アニメーションコース38名)を対象とした。

【調査方法】学級風土質問紙(伊藤・松井, 2001)の8因子(学級活動への関与, 生徒間の親しさ, 学級内の不和, 学級への満足感, 自然な自己開示, 学級への志向性, 規律正しさ, 学級内の公平さ), 58項目を本研究用に24項目に修正し, 事前(Pre)と事後(Post1), 及び1ヶ月後(Post2)の計3回実施した。また, プログラム内での達成感が共有された体験についてのアンケートも行った。

3. 結果と考察

1) 学級風土得点の変容

新入生宿泊研修に参加した女子高校生の学級風土の変容は, スポーツコースの事前と事後の間に有意な向上が見られ, 事後と1ヶ月後に有意な低下が見られた(図1)。

普段の学校生活とは違った, 自然の中での非日常的な活動を行い, 仲間と協力して課題を乗り越えていくことで仲が深まり, 学級風土の向上に繋がったのではないかと考えられる。しかし, 1ヶ月後には維持されなかった。自然の中での共同生活では, お互いのことを考え行動できる集団が形成されたが, 学校生活の中で効果が維持できなかったため, 事後の取り組みの必要性が示唆された。

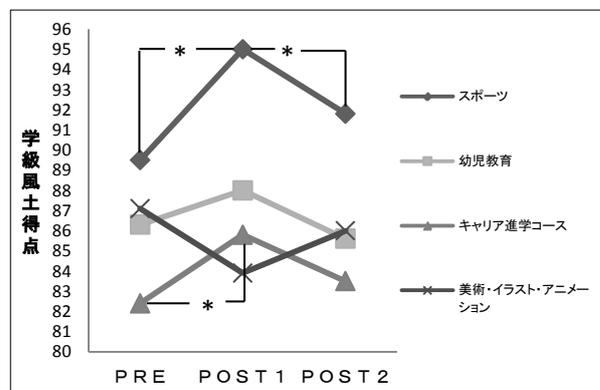


図1. 学級風土得点の推移

因子別では, 「生徒間の親しみ因子」で事前と1ヶ月後, 事後と1ヶ月後において有意に向上した。「学級内の公平さ因子」では, 事前と事後, 事前と1ヶ月後にかけて有意に向上した。「学級内の不和因子」では, 事前と事後に有意に向上した。キャンプでの協力が必要な状況で, クラス一人ひとりが意見を出し合い, 誰とでも話しやすい関係が築かれたことが向上に繋がったと考えられる。一方, 「学級への志向性因子」では, 事前と1ヶ月後, 事後と1ヶ月後にかけて有意に低下した。記述において, 仲良くなるあまり, 授業中の私語が増加したと指摘されていた。「規律正しさ因子」では, Pre-Post1間にかけて有意に低下した。キャンプでの活動は自由度が高く, 自主性を重んじることから取り組みに差が出たことが原因と考えられる。

2) 達成感の共有と学級風土の関連

学級風土と達成感の共有には強い正の相関が確認され, 達成感を多く共有している人は, 学級風土に対する評価も高いことが明らかになった。

4. まとめ

キャンプを取り入れた新入生宿泊研修をおこなうことは, 学級風土の向上へと繋がることが明らかになった。特に, 他者と協力することや1つの課題に向けて仲間と共に取り組み, 達成感を共有することが大きく影響を与えたと考えられる。今後の課題として, 宿泊研修で得られた効果を学校生活で活かすために, 宿泊研修後の活動や取り組み方についてさらなる検討を行う必要がある。

5. 引用文献

1) 伊藤亜矢子・松井仁(2001) 学級風土質問紙の作成, 教育心理学研究 49(4): pp449-457.